

たむらソーシャルネット ニュース

住み慣れた環境の偉大さを

痛感して

有限会社たむらソーシャルネット

田村 満子

どのような環境で、暮らすのか、それがどれほど重いことなのかを実感する毎日でした。ご本人の病気や怪我、あるいは介護に疲れたご家族が休憩されるために、病院や施設を利用されることがあります。そのたびに、いい形が帰宅されることを願うことがたびたびあります。確かに、「治療」「安全」などという点では、専門の施設に勝るものはないかもしれませんが。しかしどれほど親切にしてもらっても、自宅にいることの満足感、家族といふことの安心感は満たされないといえます。入院や入所中に尋ねると、皆さん表現方法は、個性的ですが、「家に帰りたい」「〇〇先生に怒られるから、はよう帰らなあかんねん」「明日、帰ったらまた家のほうにゆつくり来てや」まだいつ帰宅するか決まっていけない時に聴かれる

る声です。その表情は我慢であったり、苦痛であったり。仮の住まいでの姿にたくましさはみあたりません。

それが、帰宅されると横になってばかりだった方や、何もかもに無関心だった方が、その日から商店街に買い物に出られたり、ご家族と口げんかをされたり、友人に電話をされたりと次々と変身されていく姿が見られます。そこは、逞しさと安心感が戻った表情があり、薬や専門職の全く歯が立たない場面でもあります。妙に嬉しくなったり、悲しくなったりする瞬間です。利用者の方やご家族の底力だと思っています。利用者の方自身が、「私の暮らし」だと感じていただける環境、たとえそれが、愚痴を言う姿であっても、ご家族と喧嘩をする姿であつても、与えられた環境ではなく積み重ねてきた環境のなかで暮らしていけることを、支援していきたくと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

あるべきソーシャルワーク

実践を求めて

大阪市立大学助教授

岩間 伸之 様

日本のソーシャルワーク実践は、今や制度に強く依存することになっていきます。本当は、ニーズのあるところソーシャルワーカーがいるべきであるのに、制度として事業化されたところにだけソーシャルワーカーがいるという傾向がますます強くなっているということですね。

そうすると、実践内容は制度に拘束され、また制度改正のたびに翻弄され、その結果新しい福祉ニーズにこたえないソーシャルワーカーは地域住民からそっぽを向かれるという悪循環を生み出すこととなります。

*

「たむらソーシャルネット」の存在は、そうした既成の枠にとらわれないソーシャルワークの挑戦であるように見えます。制度のみに収まるのではなく、制度を手段として個人に地域に、そして制度に働きかけます。そして、「ソーシャルワーカー・田村

満子」の挑戦は日本のソーシャルワーカーのあるべきひとつの姿の追求でもあるのでしよう。

*

数年前から田村さんと一緒に研修を企画・実施したり、委員会等で一緒にすることが多くなりました。どこで一緒になつても、田村さんの軸がぶれることはありません。それは、「クライアント本人に最善の支援を提供するために何をすべきか」をいうとてもシンプルなものなのです。そのために、援助者は、事業者は、行政は、社協は、職能団体がそれぞれがすべきことを問うこととなります。

*

既成の枠を越えて、本来のソーシャルワークを追求するには、きつと多くの困難があるのでしよう。「なあ、うちで働いてくれる人探してんねん。誰かええ子紹介してえなあ」と携帯電話の向こうで今日も田村さんが訴えています。ソーシャルワーカー・田村満子の挑戦と苦悩はまだ続きます…。これからも同志として一緒に共闘(?)させていただければと考えています。

たむらソーシャルネット活動報告

今年一年の活動報告です。昨年からは引き続き実施している活動や、昨年から少し形を変えて行っている活動もあります。

◆◆ 訪問介護事業 ◆◆

【介護保険サービス】

介護保険制度における「サービス提供事業所」の指定を大阪府より受けております。皆さまのご自宅におうかがいし、サービスの提供を行います。

平成十八年十月現在 利用者数 十五名

【介護保険外サービス】

介護保険外の介護、外出支援などを行います。施設入所や病院に入院されている方を訪問し、話相手や散歩、買い物、同行等を実施しています。今年度は介護者の急な入院があり、掃除等の生活支援のために訪問したり、介護保険サービス利用していた方が入院し、保清や食事の見守りに訪問するといった、新たな利用がありました。

平成十八年十月現在 利用者数 六名

◆◆ 居宅介護支援 ◆◆

【ケアプラン作成】

ケアプランの作成、介護保険の申請代行や、介護保険でのサービスを「どこで」「どのくらい」受けるのかといったサービス計画を作成します。

平成十八年十月現在 利用者数 二十四名

◆◆ サロン ◆◆

生活リズムを整えるため、昼間の過ごし方を再構築するための場とし、個別対応に努めております。特にプログラムを設けず、参加メンバー、天候、健康状態により過していたいております。サロンから外出することもあり、箕面の紅葉、高津神社の梅や桜、初夏の岸和田城を見てまわりました。

平成十八年十月現在 利用者数 五名

◆◆ リビングスペース ◆◆

今年度はターミナル(終末期)となり在宅生活が困難となった方が、新たな生活をスタートさせました。また、頻繁に外出をし家に戻れず警察に保護された方が、その支援の体制ができるま

で、一週間宿泊されました。利用者や介護者の一人一人の希望に添えるよう、サービスの充実を図っております。リビングスペースに関心のある見学者の受入れも行っていきます。

平成十八年十月現在 利用者数 二名

◆◆ 実習生受け入れ ◆◆

年間を通じて、各種実習生の受け入れを行っております。今年度は、南海福祉専門学校の学生と日本社会福祉士会独立型社会福祉士研修の研修生の受け入れを行いました。

平成十八年十月現在 実習生数 七名

◆◆ 講師派遣 ◆◆

さまざまな関係先で講師活動をさせていただきました。ありがとうございます。また、ご意見・ご要望などありましたら、ぜひお願い致します。

講師分類別構成比(%)

講師先	構成比
公的機関	23.0
大学	16.0
職能団体	21.2
民間	39.8

◆◆ 相談事業 ◆◆

個人や法人との契約に基づいて、年間を通じて様々な相談に応じています。今年度は、公的な相談窓口では援助が難しい方々からの相談に応じる機会が重なりました。

◆◆ 勉強会 ◆◆

利用者の方々へより良いサービスが提供できるよう、月に一度勉強会を実施しております。内容は介護技術、ターミナルケア、認知症の理解等についてなどです。また、外部より管理栄養士をお招きし、嚥下困難な方への食事の調理方法や食中毒についても学びました。今後とも勉強を重ねていきたいと思っております。

編集後記

ニュース発行にあたり、ご協力くださいました岩間様、T様、K様、緋田様、野木様、小西様、藤井様、ありがとうございます。ニュースの内容や、たむらソーシャルネットの事業に関して、ご意見、ご助言がございましたら是非スタッフまでお願いします。

〒542-0012
大阪府中央区谷町6丁目14-23
TEL 06-6766-7071
(有)たむらソーシャルネット

あてなわ(わ)あてなわ

ハイビュウマンマン

◇ たむらソーシャルネット訪問介護
 ◇ 事業をご利用のみなさまからさま
 ◇ さまざまな「声」をお聞きすることが
 ◇ できました。

K・N 様 『筋力アップに励んでいます』

Kさんは週に一回、筋力トレーニングをするために通院されています。訪問するといつも準備をして待っておられ、ヘルパーが来るのを今か今かと待つておられることもあります。

空堀商店街を通って病院に向かうのですが、近所の方から声を掛けられることがよくあります。Kさん自身が疲れていても、近所の方の体調を気遣ったり、話に耳を傾けたりしておられます。また、デイサービスにも週二回通っておられますが、事情があつて休まれた時にいつも一緒になる方から、

Kさんが休んだから寂しかったと電話があつたそうです。そういった話からもKさんの人柄をうかがい知ることができます。

始めのうちは筋力トレーニングも「慣れないから難しい」「男の先生やつたから緊張したわ」と戸惑つておられました。それでも回数を重ねることに慣れてこられ、トレーニング後の表情も、随分柔らかくなられたように思えます。先日も、次のメニューに移るまでに待ち時間があり、「十回すればいいんやけど、時間があつたから二十回したの」と話されていきました。最近ではトレーニングの内容も追加されますます励んでおられます。



T・F 様 『猫と一緒に頑張っています』

今年八十歳のTさんは、八月から要支援となり、介護予防サービスを利用することになりました。しかし、ご本人の希望で引き続き訪問させていただくことになり、介護保険外サービスでの対応となりました。

右手麻痺のために重いものを持つことはできませんが、できることは自分で頑張つておられ、私達ヘルパーは週一回の生活援助に入っています。

何より現在五匹の猫との同居がリハビリになつているようです。多い時は七匹もいたという猫好きで、早朝から餌を用意したり、排泄物の処理に近所を見回ったり、時には猫の喧嘩の仲裁に入ったりと忙しい毎日を送つておられます。



Tさんのお人柄に外から餌だけ食べに来る猫もいます。そんな日々の中にも色々なことがあります。先日は老猫を看取り寂しい思いをされていきました。しかし、いつまでもよくよくされてはられません。捨て猫を放つておけずに、一ヶ月後にはかわいい子猫が仲間入りしています。

「一匹一匹性格が違い、子どもみたいに手がかかる」と話すTさんの顔はとても優しく、膝の上にはいつも猫がくつろいでいます。

S	M	T	W	T	F	S

